



# 古関野球殿堂入り



神宮球場で応援の指揮をする古関裕而（古関裕而記念館提供）

## 音楽で貢献「特別表彰」

野球殿堂博物館（東京）は13日、今年の野球殿堂入りのメンバーを発表し、野球の普及発展に貢献した人を対象とする「特別表彰」で、2020年のNHK朝ドラ「エール」の主人公のモデルとなつた福島市出身の作曲家古関裕而（本名勇治、1909～1988年）が選ばれた。古関は「特別

表彰」候補者に4年連続で選ばれており、念願の殿堂入りを果たした。

古関は高校野球でおなじみの「栄冠は君に輝く」や巨人の球団歌「闘魂こめて」、阪神の「六甲おろし」、早大の応援歌「紺碧の空」、慶大の応援歌「我々覇者」など数多くの野球関連の楽曲をはじめ、1964年の

東京五輪で流れた「オリンピック・マーチ」などスポーツ音楽を手がけた。「エール」でも野球との関わりが描かれ、スポーツ文化の発展に貢献してきた。

福島市などでつくる「古関裕而氏の野球殿堂入りを実現する会」が2018年から毎年、同博物館に対し、古関の功績をまとめた推薦

書を提出してきた。20年に初めて候補者となり、22年は1票差で殿堂入りを逃した。「エール」や21年の東京五輪閉会式で「オリンピック・マーチ」が流れるなど古関への全国的な関心が集まり、殿堂入りの機運が高まっていた。

野球殿堂は、日本野球の発展に大きく貢献した人たちの功績をたたえ、顕彰することを目的に1959年に創設された。プロ球界で功績のあった競技者表彰と、特別表彰がある。殿堂入りすると、表彰レリーフ（ブロンズ製胸像額）が野球殿堂博物館内の殿堂ホールに掲額される。

## 「栄冠は君に輝く」「闘魂こめて」

### 本県出身2人目

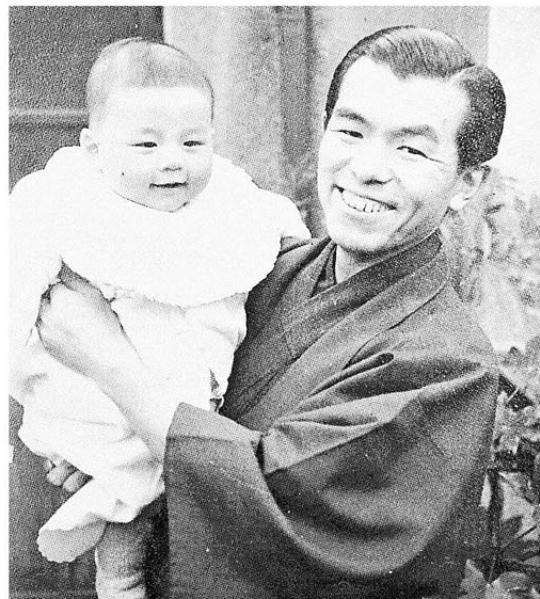
本県出身者の野球殿堂入りは、プロ野球第10代コミッショナーを務め、プロ・アマの協調体制を加速させたとして2006年に特別表彰を受けた故川島広守氏（会津若松市出身）に続い



指揮する古関裕而 1944年（古関裕而記念館提供）



野球殿堂入りを果たした古関裕而



長男の正裕さんを抱く古関

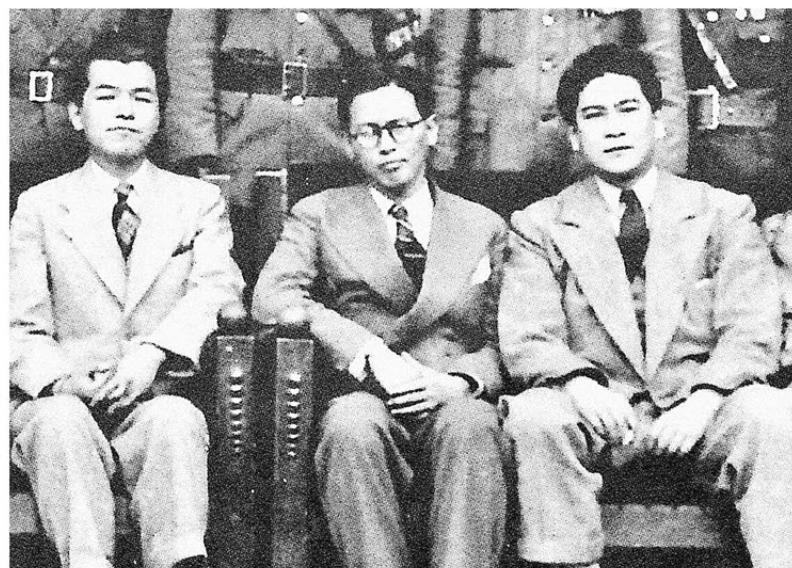
### 古関裕而の歩み

- 1909(明治42)年 福島市大町で誕生
- 14年(5歳) 父が蓄音機を購入、レコードの音色に触れる
- 16年(7歳) 福島県師範付属小(現福島大付小)入学
- 18年(9歳) 小学校の担任の影響で音楽に興味を持つ
- 19年(10歳) 卓上ピアノに熱中、楽譜が読めるようになり作曲を始める
- 22年(13歳) 福島商業学校入学
- 24年(15歳) 福島商業学校内にハーモニカバンドを結成
- 27年(18歳) 「裕而」かペンネームに
- 28年(19歳) 福島商業学校卒業後、伯父が経営する川俣銀行に入行
- 30年(21歳) 内山金子(きんこ)と結婚。日本コロムビアに招かれ専属作曲家となり上京
- 31年(22歳) 早大応援歌「紺碧の空」を作曲。「福島行進曲」と「福島小夜曲(セレナード)」発売
- 32年(23歳) 長女雅子誕生
- 34年(25歳) 次女紀子(みちこ)誕生
- 35年(26歳) 「船頭可愛や」が最初の大ヒット作となる
- 36年(27歳) 「大阪タイガースの歌」(通称・六甲おろし)作曲
- 38年(29歳) 中支従軍
- 40年(31歳) 「暁に祈る」作曲
- 42年(33歳) 南方慰問団派遣員となりビルマ(現ミャンマー)など訪問
- 44年(35歳) インバール作戦特別報道班員となる
- 46年(37歳) 長男正裕誕生
- 48年(39歳) 全国高校野球大会の「栄冠は君に輝く」作曲
- 49年(40歳) 「長崎の鐘」作曲
- 53年(44歳) NHK放送文化賞受賞
- 57年(48歳) 日曜名作座開始
- 64年(55歳) 東京五輪で行進曲「オリンピック・マーチ」作曲
- 69年(60歳) 紫綬褒章受章
- 77年(68歳) 藤沢さかい屋で「古関裕而展」開催
- 79年(70歳) 初の福島市名誉市民となる。勲三等瑞宝章受章。レコード大賞特別賞受賞
- 80年(71歳) 日劇で作曲生活50周年記念ショーソー。自伝「鐘よ鳴り響け」を刊行。7月に妻金子死去
- 86年(77歳) 30年間音楽を担当したNHKラジオ「日曜名作座」を健康上の理由から降板し、作曲生活から引退
- 87年(78歳) 「日曜名作座」を続けた業績に対し、放送文化基金個人部門賞受賞
- 88年(79歳) 画集「風景の調べ」を自費出版。11月に古関裕而記念館開館
- 89年(80歳) 8月18日死去

(古関裕而記念館ホームページより)

# 古関音楽 球史と共に

「コロムビア三羽ガラス」と呼ばれる、昭和の歌謡史を彩った本県出身の（左から）野村俊夫、伊藤久男



若かりし頃の古関と妻金子（古関裕而記念館提供）

### 古関裕而作曲の主なスポーツ関係の音楽

（○は発売年）

- ① 紺碧の空（1931年）  
早大応援部から作曲の依頼を受けた応援歌で、現在も歌い継がれている。
- ① 日米野球行進曲（1934年）  
米国の野球チームと東京六大学選抜との対戦時に歓迎の意味を込め作られた。
- ① 都市対抗野球行進曲（1934年）  
社会人野球の都市対抗野球大会を盛り上げるために作曲された。
- ① 六甲おろし（1936年）  
正式名称は「阪神（当初は大阪）タイガースの歌」で阪神ファンにはおなじみ。
- ① 我ぞ覇者（1947年制作70年）  
「夏の甲子園」で知られる全国高校野球選手権大会の大会歌として作られた。
- ① 咲冠は君に輝く（1949年）  
東京六大学野球リーグ戦が再開し、慶大応援団が打倒早稲田を意識し依頼した応援歌。
- ① スポーツシヨー行進曲（1949年）  
NHKのスポーツ放送のテーマ曲として作曲され、現在もNHKで使われている。
- ① ドラゴンズの歌（1950年）  
初代球団歌と、レコードB面に収録された「私のドラゴンズ」も作曲した。
- ① 聞魂こめて（1963年）  
読売巨人軍の球団歌「巨人軍の歌」の一つ。年のはじめの初代球団歌も古関作曲。
- ① オリンピック讃歌（1964年）  
アジア初となる1964年の東京五輪で選手入場の行進曲として使われた。近代五輪の第1回アテネ大会後に忘れられたが、古関の編曲版が公式認定された。
- ① 札幌冬季五輪大会賛歌（1971年）  
大会賛歌「純白の大地」と、開会式のための「スケーター・ワルツ」を作曲した。

39